

(15) 放射線科（井田病院）（選択科目）

◎ 研修カリキュラム責任者：山下 三代子 放射線科部長

A. 研修目標

1. 一般目標

放射線を用いる診断や治療にあたり、適応を判断し、放射線被ばくや造影剤使用の危険性とその予防を行える。CT検査及びMRI検査の原理を理解し、検査の適応と読影を修得する。

2. 行動目標

- 1) 患者の病状を理解し、診断のために最も適切な検査方法を判断することができる。
- 2) 検査に際して、放射線被ばくや造影剤の副作用にも注意をはらうことができる。
- 3) 検査の目的とリスクについて患者に説明することができる。
- 4) CT検査及びMRI検査の基本的な読影を行える。
- 5) 放射線による検査の読影レポートを作成することができる。
- 6) 頻度の高い主な疾患についての画像所見を学ぶ。

3. 経験目標

1. 単純X線写真（胸部、腹部、骨外傷例）の読影ができる。
2. 経静脈性胆道造影検査及び読影ができる。
3. 経静脈性尿路造影検査及び読影ができる。
4. 消化管造影検査及び読影ができる。
5. CT、MRI検査の読影の基礎を理解する。
6. 核医学検査の適応と方法を理解する。
7. IVRを含む血管造影の適応と手技を理解する。
8. 放射線治療の適応、副作用等の概要を理解する。
9. 画像診断レポートを自ら作成する。

B. 研修計画

研修は4週以上とする。

1. CPCやキャンサーボードなどのカンファレンスに参加する。
2. 指導医とともにCT・MRI・RI検査の読影レポートを作成し、フィードバックを受ける。
3. 希望があれば、月曜日午前中に指導医と共にIVRに参加し、適応と手技を学ぶ。

C. 指導体制

山下 三代子 放射線診断科部長 日本医学放射線学会放射線診断専門医

D. 評価

- 1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し、指導医に提出しフィードバックを受ける。
- 2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。

E. その他

放射線科以外の基本領域を専攻する場合には、各診療科に必要な画像を重点的に読影するようにしている。具体的には、経時的な変化が認められる症例について一緒に読影し、場合によりレクチャーしている。

放射線科ローテーション中は内科 ER 当直に従事するため、研修医が初療した症例についてもフィードバックし理解を深めるように努めている。